

## 旧街道ウォーク343★古代東海道[31] [古代東海道 2008-09 その 10] 「常盤平～我孫子」活動報告

【日 時】2009年2月15日(日) 11:00～16:30 曇り時々晴

【コース】常盤平駅 → 常盤平団地(オプション) → 栗ヶ沢 → 南増尾<昼食> → 藤心(茜津駅推定地) → 廣幡八幡神社 → 名戸ヶ谷 → 関場 → 柏ふるさと大橋 → 根戸城跡・金塚古墳 → 我孫子駅(12km)

【参加者】○梶川義実、磯田尚子、岩田清、大竹亮、片桐拓朗、北橋伸一、清水俊哉、高梨健一、千川明、長澤純一、林浩二、古里実、谷貝葉月、谷貝等、△山根純一(15名)(○は主催者、△は部分参加)

### 【概況説明】

この日は寒さは緩んだものの曇りがちの天気でした。常盤平駅からは、まず常盤平団地を見学しながら新京成線北側の古代東海道・前回終点へ。ここから一路北東へ進みます。金ヶ作の栗ヶ沢で県道市川柏線に合流し、南増尾の百庚申を見たのち昼食休憩をとりました。その先、新道と分かれ逆井駅の脇を通過して藤心地区へ。ニツカ通りに突き当たる周辺の茜津駅推定地を一望したのち、丘へ上がり小さいながらも雰囲気の良い廣幡八幡神社へ詣でました。この先、農村風景の残る名戸ヶ谷地区を抜け、さらに増尾城址から柏市街の住宅地を抜けて、柏ふるさと大橋で手賀沼最西端を越えて我孫子市内へ。根戸城址、金塚古墳の下をくぐり我孫子駅南側の八坂神社で終了となりました。

### 【評価結果】

古代官道らしさについては、直線的なコースがあるものの、短絡性や曲がり方に疑問のある部分があったためか、低い評価となりました。沿道風景については、手賀沼の眺めや沿道の自然風景を挙げた人が多く、平均的な評価となりました。古道の史跡については、江戸時代の史跡が多く見られたものの古代のものは少なく、平均的な評価となりました。案内表示については、歴史に関するものは一部あったものの古道に関するものが少なく、評価が低くなりました。印象に残ったものとして、南増尾の百庚申と廣幡八幡神社を挙げた人が多かったようです。古道を活かしたまちづくりの方向については、自然景観と史跡の活用が示唆されました。全体を通じての評価点は3.15で、平均的な評価となりました。



柏市増尾の廣幡八幡神社



柏市南増尾の百庚申

### 【参加者の評価結果】

1◆全体を歩いた感想 評価点：3.15 内訳：AAABBBBBBBBCC

A：街なかあり、郊外あり、田舎風景ありの変化に富んだコースで、距離が長いわりには楽しく歩けました。

A：細い道の割には現在も「短絡性」が重宝されているのか車の量が多い区間があったが、概ね快適に踏破できた。

A：直線的な道路が多く古代道がしのばれた。

B：前半は道幅の割に車も多く歩きにくかったが、大津川流域以降は落ち着いた農村風景が広がり快適だった。

B：最初は狭隘道路で建物も立て込んでいたが、手賀沼の崖下に下りると田園風景が広がって歩いて気持ちが良かった。

B：中世の城跡、神社、江戸時代の道標等がそこここであり、高低差のある道程に風景の変化がある。特に城跡周辺の農村風景が良かった。

B：庚申塔や道標等を数多く見た。凝った意匠のものもあって面白い。南増尾百庚申は、道路の片隅で場違いな感が否めないが、それも現代らしいかもしれない。一方、ニッカウキスキー工場脇から広幡八幡宮にかけて多数存在する庚申塔や道標等は、山林の中にあつて趣き深かった。

B：柏市史に則ったルートを歩いたところであるが、いくつかの区間では古代官道の原則を感じられた。また、江戸期の遺構が多数あり、古代の官道が地域の中では伝承されていることが解った。

B：今回の経路は、鉄道連隊演習線跡付近からかなり東に進路を変えて茜津駅比定地に向かっているの、大変疑問に思っていた。実際に歩いても、細街路が斜めに交差するなど余計に疑問を感じた。しかし、当日の配布資料で、茜津駅から手賀沼という水路を使うと、確かに榛谷駅方面に向かうのが便利なことがわかった。そうすると、やはり今回の経路が正しいのかな、と思ってしまう。今回の街道歩きには、いつもに増して、そういう面白さがあった。

B：市史ルートと大竹説ルートとを検討しながら歩いたのが楽しかったですね。

B：新開地、農村、住宅地と風景が変わり、手賀沼や根戸城址などもあったが、どうも全体として統一感がなかった。歩いた後も消化不良味のコースである。

C：全体としてインパクトが薄かった。しかし、古代の水辺に船溜まりがある情景が目につくような茜津駅、緑に包まれた宇多天皇勅願所廣幡八幡宮とその周辺、関場町から東までの見事に真っ直ぐな静かな道などに古代の道を想像することができた。春のような陽気だった前日より気温が下がったとはいえ、暖かい好天気にも恵まれ、満開の河津桜や梅が目を楽しませてくれた。

C：古代官道の特徴と教えていただいた直線的な道が数箇所あって雰囲気味わうこともでき、また、また、常盤平駅南口の常盤平団地や廣幡八幡神社など見どころもありましたが、歩道が少ない印象があることや車両の通行量の多いところが結構あったことから、この評価にさせていただきました。

## 2◆特に魅力的だったところ

○常盤平団地：駅前・駅上の市街地住宅（下層は店舗、上層は住宅）、広い欒並木と均整のとれた中層住棟、斜面の芝生とスターハウスなど、それぞれの特色を活かして集合住宅で都市を創っている。一時代の理想都市を目指した典型的な団地像が、今もそのまま残っている。

○常盤平団地：上から見ると星形のようになる家が珍しく、面白かった。

○常盤平の星型住宅（スターハウス）：ゆったりした敷地に、小規模で低層で簡素な住宅が、あまり整然とでなく建ち並んでいる。庭も外壁もよく手入れされており、暮らしやすそうに見えた。

○常盤平のスターハウス群：傾斜地をうまく利用し象徴的で美しい。10棟もまとめて残るとは貴重な存在。

○栗ヶ沢分岐点：古代道と近世街道、現代道路の整備の過程で、交差点改良がなされた痕跡を発見できた。

○南増尾百庚申：ずらりと並んで壮観。百を集める百庚申講の苦労は大変だろうと思った。

○南増尾百庚申：道路脇にこれだけの数の庚申塔が集められているのには驚いた。

○南増尾百庚申：これだけ数があると圧巻だった。

○南増尾百庚申：青面金剛の文字石塔ばかりがたくさん並んでいて驚いた。元々はどこにあったのだろうか。かつての信仰の深さを物語る。



松戸市常盤平団地の星形住棟（スターハウス）



柏市名戸ヶ谷に残る長屋門

○満開の河津桜：ピンクが濃くてきれいだった。

○柏ファミールハイツ増尾壱番館（※）：巨大な一棟のマンションで、少々驚いた。（※平成 15 年発売のゼンリン電子地図によれば）

○茜津駅推定地：広大な窪地に、古代の水辺に船溜まりがある情景が目に見えよような雰囲気を感じた。

○ニッカの工場：林の中に突然現れた。ウイスキー製造にふさわしい雰囲気があった。

○ニッカウヰスキー付近の庚申塔・道標・征清軍馬紀年碑等：ニッカウヰスキー工場脇から広幡八幡宮にかけての道に、庚申塔や道標や征清軍馬紀年碑等が数多く存在する。いずれも、新しいしめ縄がさすがしく、山林の木陰にあって趣があった。

○廣幡八幡神社：鬱蒼とした森の中にあり、宇多天皇勅願所としての歴史を感じさせた。

○廣幡八幡神社：長い歴史に培われた厳粛な空気を感じた。

○廣幡八幡神社：杉並木のアプローチ向こうに見えるお社が大変美しく霊験あらたかに佇んでいた。

○廣幡八幡神社：静かな参道と桃色の梅が美しかった。

○廣幡八幡神社：街道から真っ直ぐ参道へ続いている部分や、小さいながらも落ち着いた雰囲気の内境内。

○廣幡八幡神社：三叉路と鳥居、参道と緑の位置関係が大変良い。神社本殿も立派で管理が良く行き届いている。

○廣幡八幡神社：高い木立のある参道と本殿前に植えられた満開の紅梅が印象的だった。お参りの人が多かった。

○廣幡八幡神社：樹木の生い茂る細長い参道も良い雰囲気だし、参拝者が三々五々訪れることから地元では大切にされている神社であることが伺われた。

○廣幡八幡神社：交通不便な場所にあるのに、参拝客が多く賑わっていた。旧街道の正面突き当たりにある長い参道、美しく整った境内、格調高い拜殿など、由緒ある古社の風格が感じられた。

○廣幡八幡神社：よく整備されている。参道や本殿のたたずまいはとても落ち着ける。

○廣幡八幡神社：よく整備され、良い雰囲気的神社だった。

○増尾城址付近：湧水があり、手賀沼流域の開けた景色が良かった。

○名戸ヶ谷地区の長屋門：きれいに整備され利用されている。

○柏市関場地区の直線路：台地上の住宅地に真っ直ぐ伸びる古道が走っていた。

○柏市関場地区の直線路：古代官道らしさを感じさせた。

○柏市関場地区の直線道：関場町から東台本町への道は、閑静な住宅地内を一直線に抜けており、推定古代道にふさわしく、また歩きやすく快適だった。

○手賀沼：ふるさと公園からの手賀沼の風景。

○手賀沼：柏ふるさと大橋から見る手賀沼最上流部は、長大な姿を想像させるにふさわしかった。公園の風景もなじんでいた。

○柏ふるさと大橋から望む手賀沼：長く歩き通した果てに大海原に出たようで、開放感があった。

○根戸城址付近：里山を背景にした農村風景が懐かしかった。

○我孫子駅前：大山街道で歩いた長津田駅前にそっくりなのは驚いた（我孫子の方がお店が多く賑わっているが）。



柏市関場の推定古代東海道（直線路）



柏ふるさと大橋から見る手賀沼の風景

**3◆古代官道らしさ（直達性、短絡性、古代史跡等） 評価点：2.40 内訳：BBBBBBBCCC**

B：関場（東柏）付近の台地上の直線路。

B：特に関場あたりから桜台手前までの道。

B：前半は直線性があったが、逆井以降北上する箇所については短絡性に疑問を感じる。

B：部分的に直線道路があったが、全体としては屈曲しており、古代史跡も少なかった。手賀沼に最短距離で向かい、その後迂回するという今回の道筋は、陸路が遠回りになるので、やや不自然に思う。

B：前半はかなり直線的な道であったが、後半は川や沼のせいでかなり曲がっていた。茜津駅推定地（藤心）の風景は、なんとなく駅家という感じがした。

B：かなりの区間で痕跡は残っていた。藤心（ふじごころ）地区が茜津駅だったという説に納得できた。しかし、ニッカ工場から廣幡八幡宮に曲がる角のように、疑問点も残った。

C：金ヶ作から逆井までと関場町から東までの道は直線道路で、古代の道を想像できた。茜津駅比定地は、古代の水辺に船溜まりがある情景が目に見えかぶような雰囲気を感じた。廣幡八幡宮は宇多天皇勅願所としての歴史を感じさせた。

C：江戸時代の道標は多数あったが、古代官道までなかなか思いが至らない。しかし、高低差のある地形や手賀沼との位置関係、中世の城跡などから少し古代官道らしさを感じた。

C：直達性、短絡性の観点からすると、どの道を辿るのか複雑で分かりにくかった。古代官道がほぼそのまま現代に残っているのは奇跡なのだと反面的に理解した。



松戸市栗ヶ沢の道標（推定古代東海道分岐点）



柏市藤心付近の低湿地（古代茜津駅推定地）

**4◆沿道の魅力的な風景 評価点：3.33 内訳：AAABBBBBBBBC**

A：手賀沼が遠くに見える場所や名戸ヶ谷の農村風景などがよかった。また、河津桜があちこちに咲いていて早春を感じた。

A：茜津駅から増尾城跡にかけて、梅が咲く里山ののどかな風景、柏ふるさと大橋からの雄大な手賀沼の風景。

A：手賀沼が見えたふるさと公園。家族連れが楽しんでいた。

B：手賀沼の風景。

B：廣幡八幡神社。

B：南増尾百庚申は案内の「→」表示が不適切でB。

B：廣幡八幡神社から二十三夜塔にかけての大津川流域部の風景は良かった。

B：廣幡八幡神社、増尾城跡、根戸城跡周辺の農村風景などが美しく印象に残った。

B：柏ふるさと大橋から見る手賀沼は、鵜が潜って魚を取っていたり、のどかな雰囲気良かったと思う。晴れていれば、なお良かったかもしれない。

B：庚申塔や道標が多数存在するニッカウキスキー工場脇から廣幡八幡宮に至る山林の道は、雰囲気がよかった。広大な手賀沼の静かな水面と冬枯れの芦を眺めながら、古代の人の目にこの湿地がどう映っていたのか想像した。

B：典型的な東京郊外の風景であったが、住宅地と工場倉庫、農地や平地林が無秩序に混在しており、あまり魅力的ではなかった。廣幡八幡宮、手賀沼上流部の公園、その北側の農村斜面など林は美しかった。

C：ニッカ通りから廣幡八幡宮周辺までは緑に包まれた素敵な風景だった。途中の河津桜もきれいだった。



ニッカウキスキー工場脇の推定古代東海道



柏市増尾の路傍にある石塔（月参講）

### 5◆古道にふさわしい史跡 評価点：3.40 内訳：AAABBBBBBC

A：南増尾の百庚申や道標、二十三夜塔など石造物が多かった。

A：廣幡八幡神社は、地元の参拝客も多く格式を感じた。

A：たくさんの庚申塔や道標があり、地域の人たちから大切にされていた。

B：古墳や中世の城跡、近世の庚申塔など、古くからの交通路であったことを示している。

B：百庚申、道標、城址、古墳などがあつた。古代のものはなかったと思うが。

B：中世の城跡や古墳があつた。

B：寺社は少なかったが、増尾城址や根戸城址があつた。

B：全体に史跡が少なく、特に古代に縁のあるものはほとんど見られなかった。そうした中で、風格ある廣幡八幡神社や数多くの路傍の石塔類は貴重な存在だった。

C：茜津駅比定地、廣幡八幡神社以外はほとんどなかった。

### 6◆古道や歴史の案内表示 評価点：1.60 内訳：BBBCCCCCCC

B：いくつかの史跡には案内がつけられていてよかった。古道に関するものはほとんどなかった。

B：余り多くなかったように思う。

C：神社や城址の案内板はあつたが、古代官道に関するものはなかった。

C：南増尾百庚申、廣幡八幡宮、根戸城跡・金塚古墳のほか案内表示には気づかなかつた。茜津駅比定地にも案内表示が欲しい。

C：ところどころ史跡の案内はあつたが、古道としては何もふれていなかった。

C：史跡案内はあつたが、古道を説明するものは少ないように思う。

C：あまり見かけなかつた。

C：残念ながら、あまり見かけなかつた。

C：ほとんど説明がなかつた。増尾の百庚申手前の案内は示している方向がわからず、このようなものであればないほうが良い。

### 7◆古道を活用したまちづくりの方向

○最近各地で史跡散策や健康ウォーキングコースが整備されているが、ここはせっかく柏市史に推定古代東海道として記述されているのだから、増尾百庚申、廣幡八幡宮、手賀沼、根戸城址、そして路傍の石塔群などを活かし、柏市史の記述に基づく推定古代東海道ウォーキングコースとしてPRするのも面白いのでは。

○手賀沼周辺の史跡はあるが、この付近は古道よりも自然景観の活用が優先されるべきと思う。

○増尾城跡、根戸城跡・金塚古墳が、歴史に親しめる魅力的な空間になったらいいと思う。

○古道があったことがまだまだ認知されていないので、その普及がまず必要だと感じる。

○古道を意識した街はむずかしそう。

○逆井駅前の商店街は魅力のありそうなお店があったので、工夫できるか？

○茜津駅比定地は、もっと宣伝してもいいような気がしたが、工事用の防護壁が張られ、大規模な工事が始まりそうだったので、今回感じた古代の水辺に船溜まりがある情景が目には浮かぶような雰囲気も早晚失われるのだろうと思った。

#### 8◆その他、今回の企画や気づいた点など

○主催者の事前調査が行き届いており、案内されるままに歩くことができました。一人で歩けと言われても歩けないようなコースでした。(J. N)

○毎回貴重な資料をつくって頂いて感謝しています。(K. I)

○江戸時代の庚申塔や道標が数多く残されていることに驚きました。(S. K)

○今回の古道と想定されるルートには、中世以降江戸時代までの史跡が多く、官道が使われなくなった後も地域の骨格道路として活用されていたことがうかがえる。台地脇の農村風景を楽しめるルートが気持ち良かった。(M. F)

○茜津駅の同定とルートの議論が今回の大きなテーマであったが、東海道が更科日記に記されているように高輪の台地の上(反96ルート)を通っていたことから、古代は現在より海面の水位が高くなっていたと考えられる。古代ルートは内陸の常盤平から柏へ北上するルートをとっており、手賀沼の水位の後退とともに、今回歩いたルートに置き換わってきたのではないかと考える。地形図で見ると「あかね町」の地名は丁度手賀沼に流れ込む河川の谷底になっており、そこに茜津駅があったとも考えることができる。(H. Y)

○今回の古代東海道は、柏市史に詳述された希有なコースであるが、実際に歩いてみると、栗ヶ沢分岐点での不自然な右折、増尾城址、根戸城址を巡る屈曲した道筋など、疑問点が多くあった。手賀沼を最短距離で目指し、その後湖畔を迂回するというのは、やはり無理があるような気がする。これは補助的的道筋で、やはり本道は陸路をまっすぐ我孫子へ向かったのではないかと。いずれ検証したいと思いますので、その際は、みなさんは是非一緒下さい。

(R. O)

○古代官道比定の困難と面白さがわかった。(S. I)

○前半は道が狭いわりに車の交通量が多く、歩きにくかった。1年かけてついに16号線の外側へ抜けました。古道とは別に見た常盤平団地ですが、昔住んでいた団地とよく似ていて非常に懐かしい思いがしました。(T. K)

○マジメに歩きとおした感じが・・・もう少し休憩できると元気に歩けそうです。(H. Y)

○我孫子駅隣の「けやきプラザ」の11Fは展望室になっています。次回、私は欠席ですが、登楼をお薦めします。

(J. Y)

主催者より◆いくつかの疑問点はあったが、古代官道らしさも感じられた。庚申塔や道標が多く、地域の幹線道路として活用されていたことを示している。茜津駅をどこに想定するかにより、今回のルートの信憑性が決まってくるが、藤心説は有力な候補だと思った。(梶川義実)



我孫子の八坂神社に到達して



我孫子市根戸の根戸城址付近を歩く